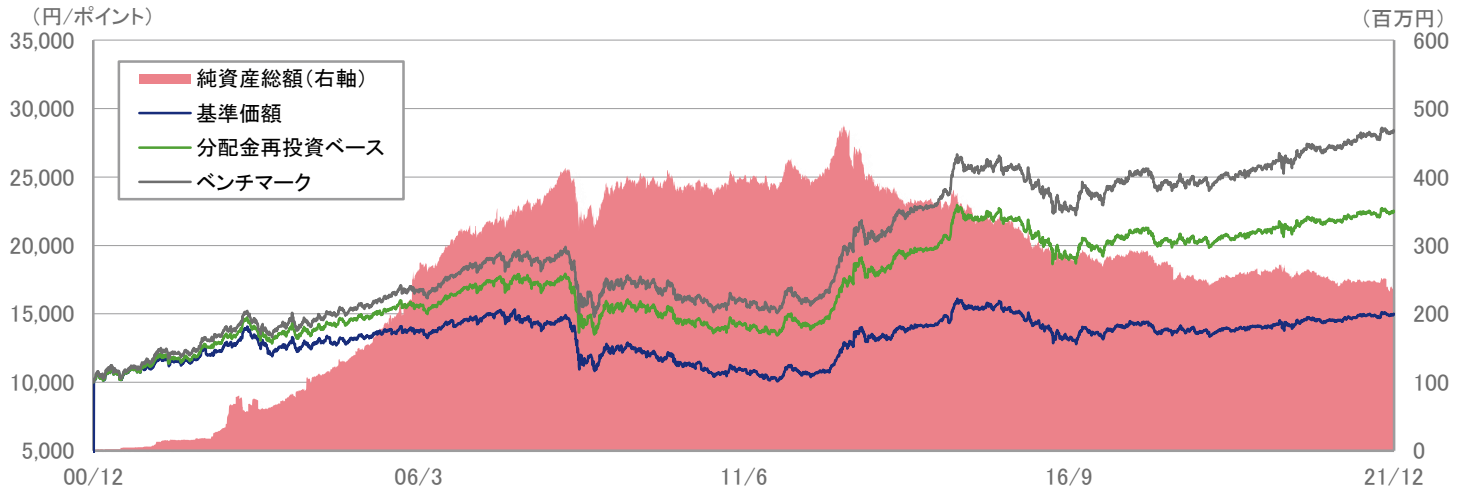


■ 基準価額・純資産総額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したもとして計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。
※2 ベンチマークの設定来推移は、設定日を10,000として指数化したものです。
※3 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 設定来の運用実績

	基準価額 (分配金再投資)		ベンチマーク (FTSE世界国債インデックス(除く 日本、当社円換算ベース))		差異 ①-② (%)
	(円)	①騰落率(%)	(ポイント)	②騰落率(%)	
当月末	22,488	-	130,157	-	-
過去1ヵ月	22,355	0.60	129,217	0.73	-0.13
過去3ヵ月	22,218	1.22	128,115	1.59	-0.38
過去6ヵ月	22,299	0.85	128,117	1.59	-0.74
過去1年	21,885	2.76	125,045	4.09	-1.33
過去3年	20,331	10.61	112,822	15.36	-4.75
設定日来	10,000	124.88	45,871	183.75	-58.87

※1 基準価額騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。
※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 運用資産構成比率

ファンド	比率(%)
外国債券	96.5
短期資産等	3.5
合計	100.0

※1 比率はベビーファンドの実質組入比率(純資産総額比)です。
※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

■ 分配実績

決算年月日	分配金 (課税前) (円)
2021/10/18	0
2020/10/16	40
2019/10/16	100
2018/10/16	110
2017/10/16	130
2016/10/17	110
設定来合計	5,259

※1万口当たりの実績です。

■ 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額 (円)	14,975	14,886	+89
純資産総額 (百万円)	238	233	+5

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

	基準価額 (円)	日付
設定来高値	16,117	2014年12月8日
設定来安値	10,000	2000年12月22日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。
※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

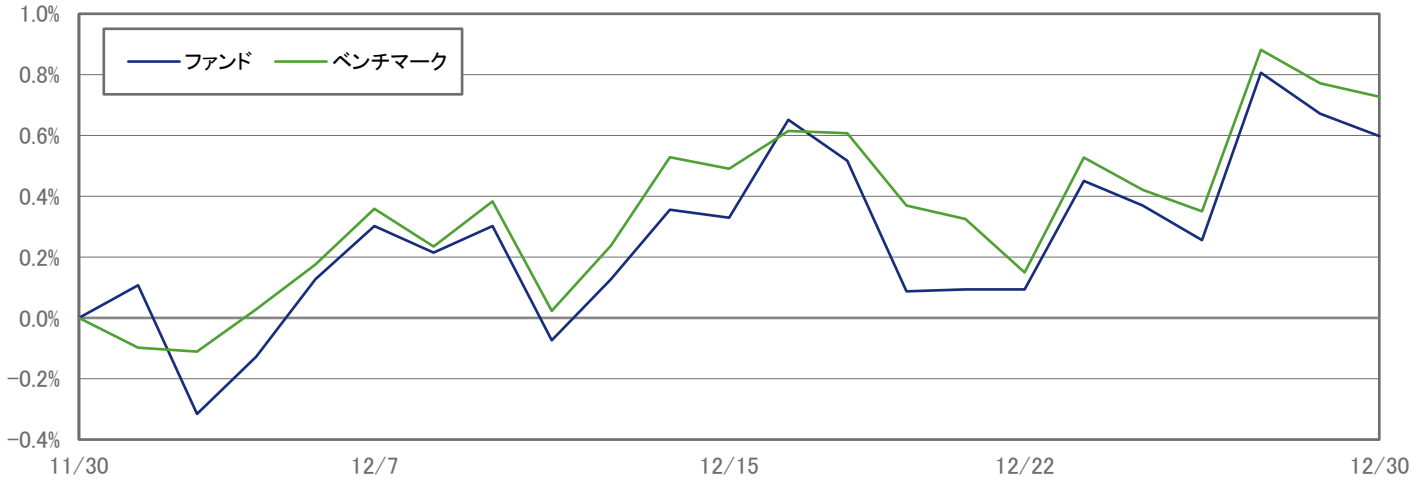
■ 運用概況

当月末の基準価額は、14,975円(前月比+89円)となりました。
また、税引き前分配金を再投資した場合の月間騰落率は+0.60%となり、ベンチマークの月間騰落率は+0.73%となりました。

<運用担当者のコメント>

■ 12月の市場動向と運用状況

当月のパフォーマンス推移



※ 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

<参考/基準価額の要因分解>

	(単位:円)	(単位:%)
	基準価額	月次騰落率
2021年12月30日	14,975	-
2021年11月30日	14,886	-
増減	89	0.60
債券要因	-113	-0.76
キャピタル	-125	-0.84
うち現物	(-125)	(-0.84)
うち先物	(-)	(-)
インカム	12	0.08
為替要因	218	1.46
小計	105	0.70
その他要因	-16	-0.11
要因合計	89	0.60

※ 上記の要因分解は、主要項目別に寄与度を概算した参考値です。
※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

市場動向

米国金利は、新型肺炎変異株に対する懸念が後退したことに加え、欧州金利の上昇や国債入札の軟調な結果を背景に上昇しました。独国金利は、新型肺炎変異株に対する懸念が後退したことや、欧州での天然ガス価格高騰を受けたインフレ懸念の高まりを背景に上昇しました。為替については、ドルは、米国長期金利の上昇や堅調な株式市場を背景に月間では円に対してドル高となりました。ユーロは、堅調な株式市場を背景に円に対してユーロ高となりました。

運用担当者のコメントは、受益者向けに投資信託の運用状況を開示するため、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウエリントン社)から提供された情報を元に、農林中金全共連アセットマネジメントが作成したものです。ウエリントン社からの情報は、海外市場の月末を基準として提供されており、ファンドの評価基準日とは一日異なります。また、上記コメントは、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

ファンド・レビュー

12月のファンドのパフォーマンスは前月比+0.60%、ベンチマークのパフォーマンスは前月比+0.73%、ファンドのベンチマークに対する相対パフォーマンスは-0.13%となりました。

当ファンドが組入れているマザーファンド(ドルベース)の12月のパフォーマンスをベンチマークと基準を揃えて比較すると、ファンドのパフォーマンスは以下の要因から、ベンチマークを上回りました。

■(+)デュレーション戦略の寄与はプラスとなりました。英国国債やドイツ国債、フランス国債をアンダーウェイトとしたことは、イングランド銀行(以下「BOE」という)が予想に反して利上げに踏み切ったことや、欧州中央銀行(以下「ECB」という)が資産購入プログラムについてややタカ派な発表を行ったことを受けてプラスに寄与しました。

■(+)通貨戦略の寄与はプラスとなりました。ノルウェー・クローネをオーバーウェイトとしたことは、原油高を受けてノルウェー・クローネが上昇したことからプラスに寄与しました。

■(0)国別配分戦略の寄与は中立となりました。

■(0)イールドカーブ戦略の寄与は中立となりました。

■(+)信用戦略の寄与はプラスとなりました。投資適格社債の選別的な保有は、新型肺炎変異株の懸念後退や金利の変動性の低下を受けてスプレッドが縮小したことからプラスに寄与しました。

■ 今後の市場見通しと運用方針

■世界経済の勢いは減速しつつあるものの、多くの国では厳しい移動制限措置の再発動に対して消極的であり、経済活動は高水準を維持しています。貿易戦争とそれに続く新型肺炎の感染拡大は、脱グローバル化やサプライチェーンのローカル化を加速させ、企業に従来以上の在庫水準の確保を強いることで柔軟な生産活動が困難となっており、インフレリスクを根本的に変化させています。市場はターミナルレート(最終的な利上げ到達点)の上昇について懐疑的であるため、インフレ抑制への対応として、利上げサイクルの長期化ではなく、利上げ時期の前倒しを織り込んでいます。コアインフレが高止まりする中においても、景気が堅調であると認識すれば、市場はターミナルレートの想定を引き上げる必要があると考えています。米連邦準備制度理事会(以下「FRB」という)は、イールドカーブの形状を反転させることなく、長短金利差を拡大させながらターミナルレートを引き上げようとしています。利上げに加えて、量的引き締め(QT)が政策引き締めのもう一つの手段となる可能性があります。一方で中国では、当局による新型肺炎への厳格な対応や格差是正のための規制強化が、FRBの金融政策との乖離を拡大する要因となっています。需給面では、先進国全体の国債純発行額は中銀の国債購入額を2018年以來の速いペースで上回ると見ており、量的緩和(以下「QE」という)が縮小されるにつれ、金利の変動性が高まると考えています。こうした状況の中、英国国債、欧州国債のデュレーションをアンダーウェイト、米国の長短金利差の縮小を想定したポジションを保有し、オーストラリア国債のデュレーションを適度にオーバーウェイトとすることを検討します。通貨別では、商品市況に感応度の高い先進国通貨を嗜好します。

■債券:

【北米】経済指標は減速し始めているものの、トレンドを上回る成長を今後3ヶ月から半年間は維持すると見ています。供給制約のピークアウトを示唆する兆候も見られ、今後半年から1年間におけるインフレ率の上昇ペースは減速すると思われるものの、インフレ率は依然として歴史的な高水準に留まると考えています。コアインフレ率は1-3月期半ばまでは更に上昇し、年後半にかけて低下に転じると予想しますが、FRBの想定よりも高い水準で推移すると思われます。経済活動水準および供給制約の状況から示唆されるインフレ見通しと比較すると、米国長期金利の水準は低位にあると考えています。FRBは今年3月にQEを終了すると想定され、その後は利上げに加えてバランスシート縮小も金融引き締めを選択肢の一つになると考えています。但し、追加財政支出が実現せず所得を圧迫することや長引く不透明感に起因する予防的な貯蓄の増加、設備投資の減少といった景気下振れリスクが残存しています。一方で、財と労働の供給が想定以上に早く改善すれば、中期的に景気が上振れる可能性も考えられます。こうした中、米国の長短金利差縮小を想定しつつ、ポジションを機動的に変更します。

【ユーロ圏】景気下振れリスクは徐々に緩和されています。個人消費の堅調さは財政支出減額に伴う経済下押しの影響を上回っており、加えて今年度は支出増額を伴う財政支出計画が発表されると見られることから、この下押し圧力は更に緩和される可能性があります。この点で注目すべき国がドイツです。新型肺炎変異株の影響を受けて2022年1-3月期はGDPの下振れリスクがありますが、2022年4-6月期にはより強い成長が期待されます。こうした中、ECBはややタカ派化しており、パンデミック緊急資産購入プログラム(PEPP)が3月に終了する予定とされたことに加え、2022年中のQEによる国債買入額は市場予想より少額とされたため、欧州国債のスプレッドは拡大する可能性があります。但しECBは、新型肺炎の感染再拡大時のQE拡大にかかるハードルを、FRBやBOEに比べてかなり低く設定しており、政策転換の余地が残されていると考えています。こうした中、欧州国債のデュレーションをアンダーウェイトとすることを検討します。

【英国】英国経済の成長には引き続き勢いがあります。新型肺炎変異株は、労働市場の改善の動きや経済成長の持続性の妨げとはなっていないことから、BOEは力強い労働指標とインフレ指標に基づいて今後の政策を検討すると思われます。家計は、ネットの借入額、住宅資産の含み益、可処分所得の状況を勘案すると、インフレ上昇に対する余力を有していると考えています。雇用については、失業率が新型肺炎の感染拡大前の水準以下にまで低下していることから、サービス部門のインフレは今後半年間で大幅に上昇すると予想されます。今後は家計消費の回復力がテーマになると考えられますが、一方で企業投資に回復の兆候が殆ど見られない点には留意が必要と考えます。BOEは利上げを継続すると見ていますが、金融政策を引き締めるといふより、中立金利が低水準にあると見られる中で緩和的な金融政策を巻き戻すといった解釈が正しいと考えています。こうした中、英国国債のデュレーションをアンダーウェイトとすることを検討します。

■通貨:

【米ドル】FRBがややタカ派な政策へ移行するにつれて、米ドル安の要因は弱まっています。米ドルのロングポジションの大幅な積み上がりや、各国中銀の間での相対的な政策スタンスが変化した場合、米ドルの上昇トレンドに変化が生じる可能性があります。こうした中、米ドルについては若干ポジティブな見方を維持しています。

【ユーロ】ECBによる金融引き締めを通じたインフレ圧力への対応余地は限られている一方で、ECBは、景気が再び悪化した場合において、QEを拡大するハードルを、FRBやBOEと比べてかなり低く設定していると考えます。こうした中、ユーロについてネガティブな見方を維持しています。

【英ポンド】エネルギー不足や地政学リスクが経済に及ぼす悪影響を考慮し、英ポンドには慎重な見方を持っています。こうした中、英ポンドをアンダーウェイトとする方針です。

※運用担当者のコメントは12月末時点のものです。また、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

運用担当者のコメントは、受益者向けに投資信託の運用状況を開示するため、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウエリントン社)から提供された情報を元に、農林中金全連アセットマネジメントが作成したものです。ウエリントン社からの情報は、海外市場の月末を基準として提供されており、ファンドの評価基準日とは一日異なります。また、上記コメントは、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

<マザーファンドの運用状況>

■ 国別組入比率とデュレーション

国名	① 組入比率 (%)		② 修正デュレーション(年)	
	ファンド	ベンチマーク	ファンド	ベンチマーク
米国	49.9	47.5	6.53	7.04
カナダ	5.3	2.0	6.02	7.80
イギリス	4.6	6.0	14.31	13.75
ユーロ	31.5	38.6	9.06	8.55
ドイツ	1.8	7.2	15.25	8.41
フランス	8.2	9.9	8.63	9.03
アイルランド	1.2	0.8	8.29	8.94
イタリア	9.8	8.8	6.68	7.49
オーストリア	1.3	1.4	16.87	11.02
オランダ	1.7	1.9	11.06	9.20
スペイン	5.5	5.8	8.56	8.06
フィンランド	0.5	0.6	9.24	8.46
ベルギー	1.5	2.2	13.27	10.16
ポルトガル	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
スウェーデン	0.2	0.3	9.28	6.33
ポーランド	0.5	0.5	4.11	3.97
デンマーク	0.3	0.4	13.48	10.21
ノルウェー	0.2	0.2	6.31	4.44
オーストラリア	2.8	1.6	8.54	7.71
シンガポール	0.6	0.4	5.09	7.81
マレーシア	-	0.5	-	7.09
メキシコ	0.5	0.7	6.69	5.20
イスラエル	0.4	0.5	7.66	6.81
中国	-	0.7	-	5.64
ニュージーランド	-	-	-	-
債券合計	96.9	100.0	7.75	8.02
その他	3.1	-	-	-
合計	100.0	100.0	-	-

※ 比率は純資産総額対比です。

■ 組入上位10銘柄

順位	銘柄名	国名	通貨	クーポン(%)	償還日	組入比率(%)	分類
1	T-NOTE 0.25 250930	アメリカ	米ドル	0.250	2025/9/30	7.1	国債
2	T-NOTE 0.75 260831	アメリカ	米ドル	0.750	2026/8/31	6.1	国債
3	T-BILL 0 220125	アメリカ	米ドル	0.000	2022/1/25	3.1	国債
4	BTPS 0 260401	イタリア	ユーロ	0.000	2026/4/1	3.0	国債
5	T-NOTE 0.125 230831	アメリカ	米ドル	0.125	2023/8/31	2.9	国債
6	T-BILL 0 220331	アメリカ	米ドル	0.000	2022/3/31	2.6	国債
7	T-NOTE 1.25 310815	アメリカ	米ドル	1.250	2031/8/15	2.4	国債
8	OAT 0 260225	フランス	ユーロ	0.000	2026/2/25	2.3	国債
9	T-BOND 3.0 480215	アメリカ	米ドル	3.000	2048/2/15	2.0	国債
10	AUD GOV 2.75 291121	オーストラリア	オーストラリアドル	2.750	2029/11/21	2.0	国債

※ 比率は外国債券現物対比です。

組入銘柄数: 160銘柄

■ 通貨別組入比率

(%)

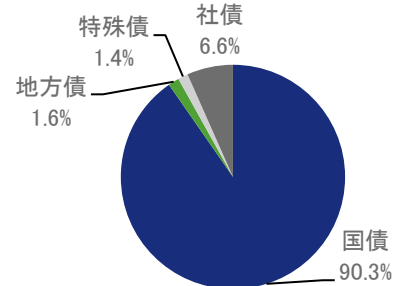
通貨	ファンド	ベンチマーク	差
米ドル	47.4	47.5	-0.1
ユーロ	38.4	38.6	-0.3
英ポンド	6.0	6.0	0.0
カナダドル	2.0	2.0	0.0
その他(円除く)	5.9	5.9	0.0
合計	99.6	100.0	-0.4

※ 比率は純資産総額対比です。

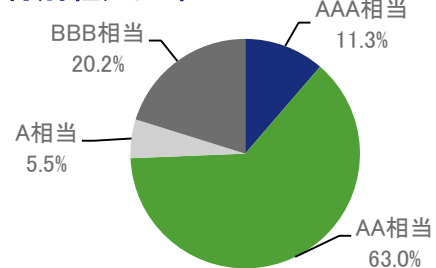
■ 保有債券の属性

	ファンド	ベンチマーク	差
平均利回り(%)	0.90	0.87	0.02
平均クーポン(%)	1.05	1.81	-0.76
平均残存期間(年)	8.70	9.05	-0.34
修正デュレーション(年)	7.75	8.02	-0.27

■ セクター別組入比率



■ 格付別組入比率

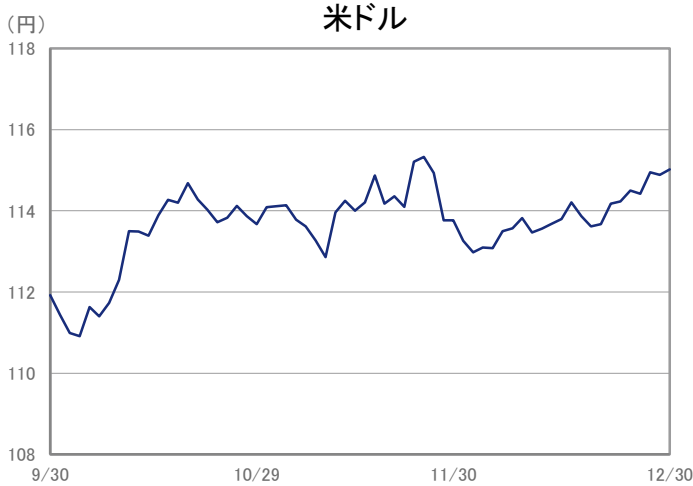


※1 比率は外国債券現物対比です。

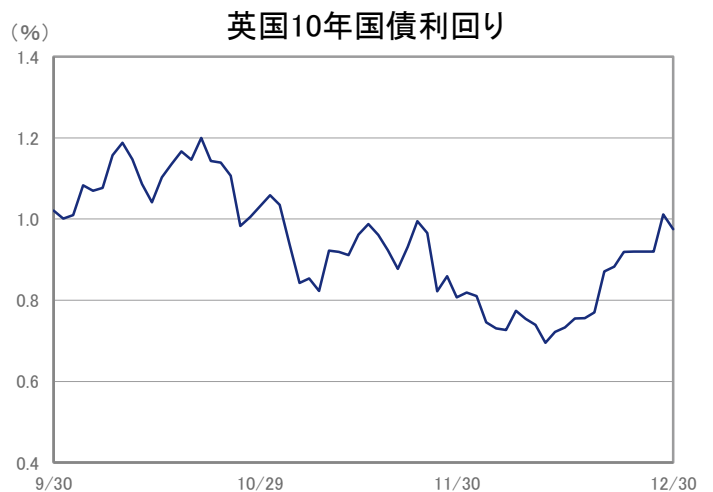
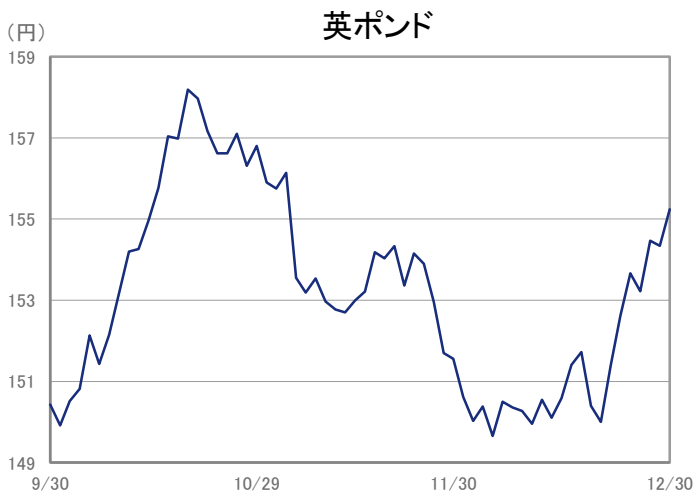
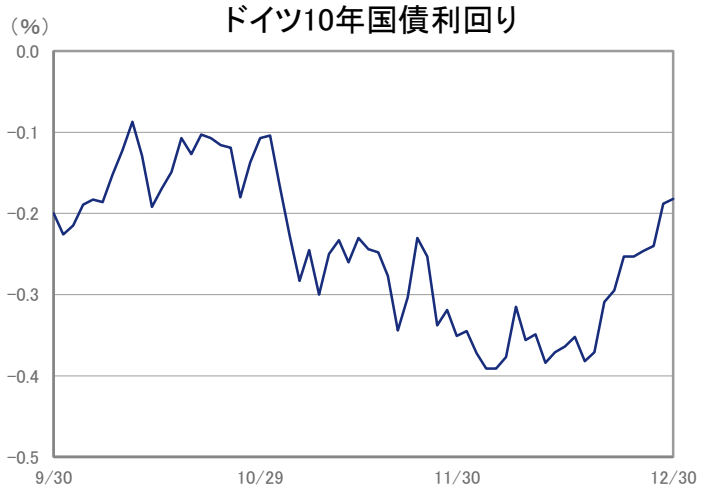
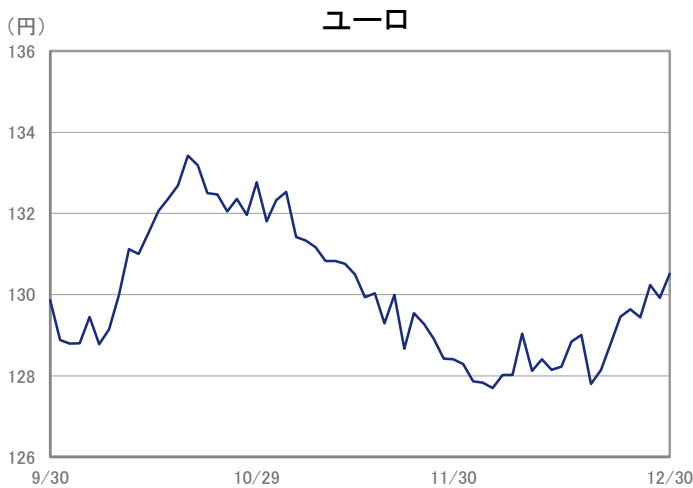
※2 格付けは、原則としてS&P社、Moody's社のうち低位のものを採用しています。

<参考>市場動向(マーケット指標の推移)

■ 為替相場



■ 債券市場



当ファンドは、公社債などの値動きを生じる証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。従って元金が保証されるものではありません。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。当資料は当社が信頼できると判断したデータにより作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。投資信託は貯金(預金)保険制度の対象ではありません。当資料は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

商品の特色

- 当ファンドは、JA海外債券マザーファンドを主要投資対象とし、マザーファンドを通じて、日本を除く世界各国の公社債を中心に投資を行います。
- マザーファンドの運用にあたっては、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー、ウエリントン・マネージメント・香港リミテッドおよびウエリントン・マネージメント・インターナショナル・リミテッドに外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限を委託します。
- 当社が円ベースに換算したFTSE世界国債インデックス(除く日本)をベンチマークとし、ファンダメンタルズ分析と計量分析を併用した手法により運用を行い、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。
- ポートフォリオ全体の平均格付(保有している有価証券に係る信用格付けを加重平均したもの)は、原則としてA格以上を維持することとします。外貨建資産については、原則として対円為替ヘッジは行いません。

お申込みメモ

購入単位	<通常の申込> 販売会社が定める単位 <確定拠出年金制度に基づく申込> 1円以上1円単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社の指定する日までに支払ってください。
換金単位	1口単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から、信託財産留保額を差し引いた価額となります。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して5営業日目から支払いを行います。
申込締切時間	原則として午後3時までとなります。(ただし、受付時間は販売会社により異なる場合がありますので、詳細につきましては販売会社までお問い合わせください。)
申込受付不可日	ニューヨーク証券取引所の休場日またはニューヨークの銀行の休業日には、購入・換金の申込受付を行いません。(詳しくは、販売会社または委託会社にお問い合わせください。)
換金制限	信託財産の資産管理を円滑に行うために大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止等により購入・換金の申込受付が中止または取消しとなることがあります。
信託期間	無期限(設定日:2000年12月22日)
繰上償還	受益権の総口数が5億口を下回った場合などには、繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年10月16日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎年10月の決算時に分配を行います。販売会社との契約によっては、税引き後、無手数料で再投資が可能です。(年1回)
信託金の限度額	1兆円を限度とします。
公告	委託会社が投資者(受益者)に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎年10月の決算時及び償還後に交付運用報告書を作成し、販売会社より知れている投資者(受益者)に対して交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。なお、税制が改正された場合等には変更される場合があります。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ニューヨーク証券取引所の休場日またはニューヨークの銀行の休業日には、購入、換金のお申込みの受け付けを行いません。金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、購入、換金のお申込みの受け付けを中止すること、およびすでに受け付けた購入、換金のお申込みを取り消す場合があります。

委託会社、その他の関係法人

- 委託会社 : 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第372号 一般社団法人 投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員)
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
: ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー、ウエリントン・マネージメント・香港リミテッドおよびウエリントン・マネージメント・インターナショナル・リミテッド(投資顧問会社)
当ファンドの直接の関係法人ではありませんが、委託会社よりJA海外債券マザーファンドにおける外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限の委託を受けて投資判断・発注等を行います。
- 受託会社 : 三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本マスタートラスト信託銀行株式会社)
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- 販売会社 : 以下をご覧ください。
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

販売会社等につきましては、以下の照会先までお問い合わせください。

◆農林中金全共連アセットマネジメント株式会社
ホームページ : <https://www.ja-asset.co.jp/>
フリーダイヤル : 0120-439-244(受付時間:営業日の午前9時~午後5時)

お申込、投資信託説明書(交付目論見書)のご提供は

主なリスクと費用

下記の事項は、この投資信託(以下、「当ファンド」という。)をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項および投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

■ 当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは、主に日本を除く世界各国の公社債を実質的な投資対象としますので、海外金利の上昇による組入公社債の価格の下落や、組入公社債の発行会社等の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資を行いますので、為替の変動により損失を被ることがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「金利変動リスク」「為替変動リスク」「信用リスク」などがあります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

■ 当ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	<p><通常の申込> 購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が個別に定める手数料率を乗じた額です。ご購入時の手数料率の上限は1.65%(税抜1.5%)です。</p> <p><確定拠出年金制度に基づく申込> 無手数料</p>
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.20%を乗じた額を、換金時にご負担いただきます。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用(信託報酬)	毎日、純資産総額に年1.32%(税抜1.20%)を乗じた額を計上します。毎計算期間の最初の6ヵ月終了日及び毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。
その他の費用・手数料	<p>監査費用は、毎日、純資産総額に年0.0033%(税抜0.003%)を乗じた額を計上します。毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。</p> <p>有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等は、その都度信託財産中から支払われます。</p> <p>※運用状況により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。</p>

※ファンドの費用の合計額は、投資者の皆様がファンドを保有する期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

留意事項

- 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(以下、「当社」といいます。)が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見直しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。
- 当ファンドは、公社債などの値動きの生じる証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。
- 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金(貯金)保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。
- ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。
- FTSE世界国債インデックス(除く日本・当社円換算ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックス、FTSE世界国債インデックス(米ドルベース)をもとに、FTSE Fixed Income LLCの承諾を得たうえで、当社が独自に円換算したものです。